



吉野川の清流に雛を流す

女の子の病封じを祈願

南阿田の流し雛

流し雛^{びな}が今年も4月6日に行われ、南阿田・源竜寺で供養された雛が南阿田町の吉野川河畔から着物を身にまとった女の子の手によって流されました。

これは女の子の病封じを祈願するもので、大豆で作った頭に、色紙の着物とはかまを着せた男女一對の雛を竹の船に乗せ、紙の一文銭をそえ吉野川に流すものです。戦前までは流し雛の行事が続いていましたが、戦中・戦後に一時期途絶えたものの、昭和44年に復活し今年で39回を迎えました。

この流し雛は毎年4月の第1日曜日に行われています。

町並み保存へ取り組み始まる

五條新町地区町なみ保存会

江戸時代からの民家が並ぶ五條・新町地区で、その町並みを国の重要伝統的建造物群保存地区に選定するための取り組みが始まりました。

地域住民による、「五條新町地区町なみ保存会」(栗山亮作会長)の発足式が3月27日に新町公民館で開かれました。また五條市教育委員会では4月から文化財課を新設し、「遺産を資産に」を合い言葉に、行政と市民が一体となって、五條市が全国に誇れる五條・新町の町なみを、後世に残していく取り組みを進めていきます。



発足式であいさつする
山本陽一副会長



テクノパークならで消防訓練

春季火災予防週間にともなう行事として、3月25日にテクノパークなら工業団地内の住友ベークライトにおいて消防訓練を実施しました。訓練は従業員による通報訓練、避難誘導訓練、自衛消防隊による初期消火訓練、そして消防本部および消防団による消火訓練、救助救急訓練を行いました。

この訓練を通して、同社はもとより訓練を見学していたテクノパークならの各社は、一層の防火管理の強化と自主防災体制の確立に努めていく事を再認識しました。



消防本部、消防団の消火訓練